

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	人文ホールから世界へ:グローバル人材養成プログラムの開発ー「論理思考型アクティブラーニング」と短期語学留学によるグローバル人材育成のモジュール1	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	人文学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	国際交流センター	
実施責任者(所属)	伊藤盡(人文学部・准教授, 当初の花崎美紀准教授から交代)	
取組の目標	人文学部生のグローバル化を促進し, 留学への関心を高め, 交換留学生数を増やす	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1) 外国語サロン(英語・ドイツ語・フランス語・中国語)の実施</p> <p>2) 多文化交流サロンの実施</p> <p>3) 第6回ブリティッシュ・カウンシル英国大学視察に2名の教員を派遣</p> <p>4) ダブリン・シティー大学への語学研修実施(3月, 教員1名帯同)</p> <p>5) 人文フォーラムの実施(H27.2.7)</p> <p>(成果の詳細は別添資料参照)</p>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び, そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	<p>(そう評価する理由)</p> <p>定期的に外国語サロン及び多文化交流サロンを実施し, 語学研修プログラムを企画し留学への興味と関心を高めることができた。その結果, 今年度9名だった交換留学生数が, 来年度は12名に増えた。しかし, 夏に企画したオックスフォード語学研修は募集したものの, 費用等の面で履行最低人数の10名に達しなかったため中止せざるを得なかった。春のダブリン・シティー大学の研修には1名の応募があり, 今後の交流につなげていくためにも帯同教員1名が随行し実施した。大使館バスツアーに関しては, 昨年度大雪による韭崎での立ち往生という苦い経験もあり, 今年度はそれに代わり, アクティブラーニングを取り入れた学生主体の人文フォーラムを2月7日に実施し, 成功裏に終えることができた。</p>
	b. <input checked="" type="checkbox"/> おおよそ達成できた	
	c. 半ば達成できた	<p>(今後の展望)</p> <p>イギリス及びアイルランドへの語学研修プログラムを検証・精査し, それに向けて外国語サロン及び, 授業と連動させてPBLにより構築し直した多文化交流サロンを通じて, 早い段階から学生の留学への意識を高め。これにより, 20名の語学研修の参加者と, 交換留学生数のさらなる増加(5名増)を目指す。</p>
	d. おおよそ達成できなかった	
	e. 達成できなかった	